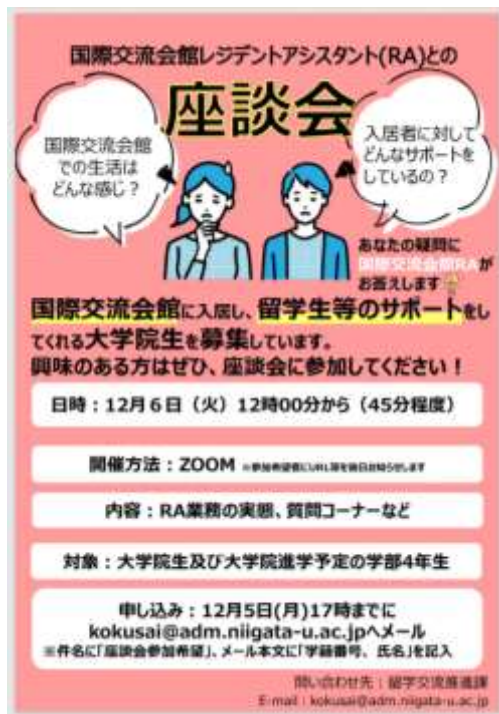


国際交流会館レジデントアシスタント（RA）との座談会を開催しました

本学留学交流推進課では現在、2023年4月から本学の外国人留学生・外国人研究者向け宿舎である国際交流会館に入居し、入居者をサポートしてくれるレジデントアシスタント（RA）を募集しています。このことに伴い、12月6日（火）の昼休みを活用して、現役のRA3名が中心となり、次の2つの趣旨のもと、希望者との座談会を開催しました。

1. 実際に留学生と一緒に生活しているRAの話聞いてもらい、RAの仕事に興味を持ってもらう。
2. RAとして実際に国際交流会館に入居した後のイメージをもってもらおう。

このような座談会は初めての試みでしたが、5名の学生の参加がありました。



開催を案内するポスター

まず初めに、現在公開されている募集要項に沿って、「応募資格」や「(入居者に対する)サポート内容」等の各項目について、現役RAから実体験をふまえた説明がありました。これは現役RAたちの、「例えば、応募資格の『語学力』とは、どのくらいあればよいのか。応募を考えている後輩たちには、自分たちの経験と一緒に、より具体的に伝えたい」との思いから実施されたものです。

現役RAの一人は、語学力について、「今どれだけの語学力があるかということよりも、『話そう』『聞こう』という姿勢が大事であると思う」と話し、自身が、時には聞き返したり、英語表現を調べたりしながら入居者とコミュニケーションを取ってきた経験を共有しました。

次に、RA をしていてよかったこと、難しかったことについて話がありました。現役 RA の一人は、「入居者には、自分よりも年上の留学生が多くいる。RA として、年下の立場で彼らに注意をしなければならないときは難しさを感じることもあるが、人生経験が豊かな留学生と関われることは RA のよさ。自分が悩みを相談すれば、親身になってもらえる」と話し、通常の大学生活では簡単には得ることができない、国際交流会館の RA ならではの人間関係の広がりについても話が及びました。

このほか、RA 間の関係について触れ、「RA 間で話し合いをして、計画を立てて、役割分担をして…。それぞれの強みを生かしながら、一緒に活動してきた。ここで身に着けた『調整力』は、研究や就職活動にも必ず役に立つはず」と話してくれる現役 RA もいました。

最後に設けられた質疑応答の時間では、参加者から、「RA として留学生と関わる中で、カルチャーショックを受けた出来事について、さらに詳しく知りたい」といった質問が出ました。

座談会の途中には、国際交流会館の様子がより伝わるようにと居室内をライブで見せたり、留学生との交流時の写真を示したりする場面もあり、充実した座談会となりました。

RA の応募締め切りは、2022 年 12 月 14 日（水）17：00 です。

「今回の座談会には出席できなかったけれど、現役 RA からもう少し話を聞いて、応募を検討したい」という方がいましたら、留学交流推進課へメールでお知らせください。

本件に関するお問い合わせ先
学務部留学交流推進課留学生係
メール kokusai@adm.niigata-u.ac.jp